

《海港と空港の連携》

平成18年度 関西国際空港における 航空物流機能強化の取り組み

国際貨物取扱施設の増強状況

【取組状況】 関西国際空港の国際貨物施設の着実な増強により、最近3年間で10施設が新築・増築

(各面積は延床面積を表記)

国際貨物上屋A棟
(日本航空インターナショナル)
2004年10月 6,190m²



生鮮貨物取扱施設(航空集配サービス)
2005年7月 2,366m² 2006年6月再拡張+1,154m²
日本の空港内では最大の低温庫

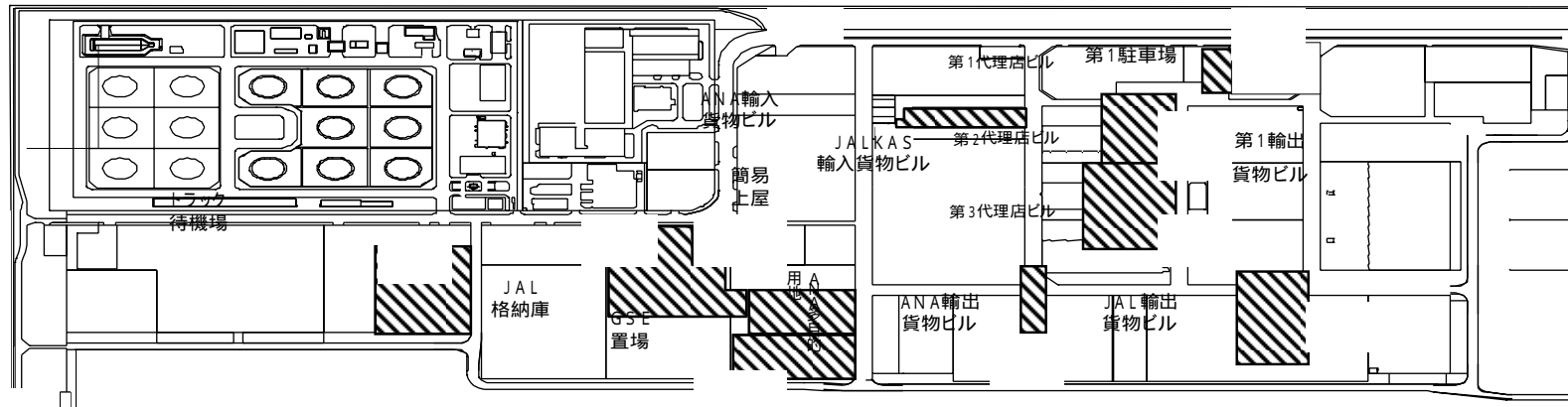


第2駐車場 第2駐車場

CKTSカーゴビル
(キャセイ関西ターミナルサービス)
2005年8月 6,853m²



国際貨物上屋B棟
(日本通運)
2005年11月 9,437m²



上屋底拡張
(FedEx)
2006年2月 1,036m²



国際貨物上屋E棟
(郵船航空サービス)
2007年5月末供用予定 約6,230m²

国際貨物上屋D棟
(日本貨物航空)
2006年10月 6,200m²

国際貨物上屋C棟(DHL)
2006年10月 10,100m²

JAL KAS第3貨物ターミナル
(日航関西エアカーゴシステム)
2006年9月 2,015m²

国際貨物上屋F棟(阪急交通社)
2007年12月末供用予定 約4,000m²



関空における深夜貨物便を活用したモデル事業の推進

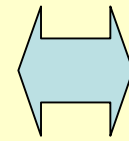
- 【取組状況】
- ・平成17年11月、関空国際物流効率化推進協議会を設立。深夜貨物便を活用した関空 - 中国間の国際物流の円滑化を図る国際物流効率化モデル事業について具体的な検討を行った。
 - ・平成18年8月から、関空 - 上海間の深夜貨物便3便で開始し、冬期スケジュールから週6便に増便した。

深夜貨物便利用貨物 実態調査

10月11,13,18,20日実施

受託～配送・引渡しまでの
リードタイムの短縮
平均22時間27分

総所要時間が72時間以内のサンプルの場合

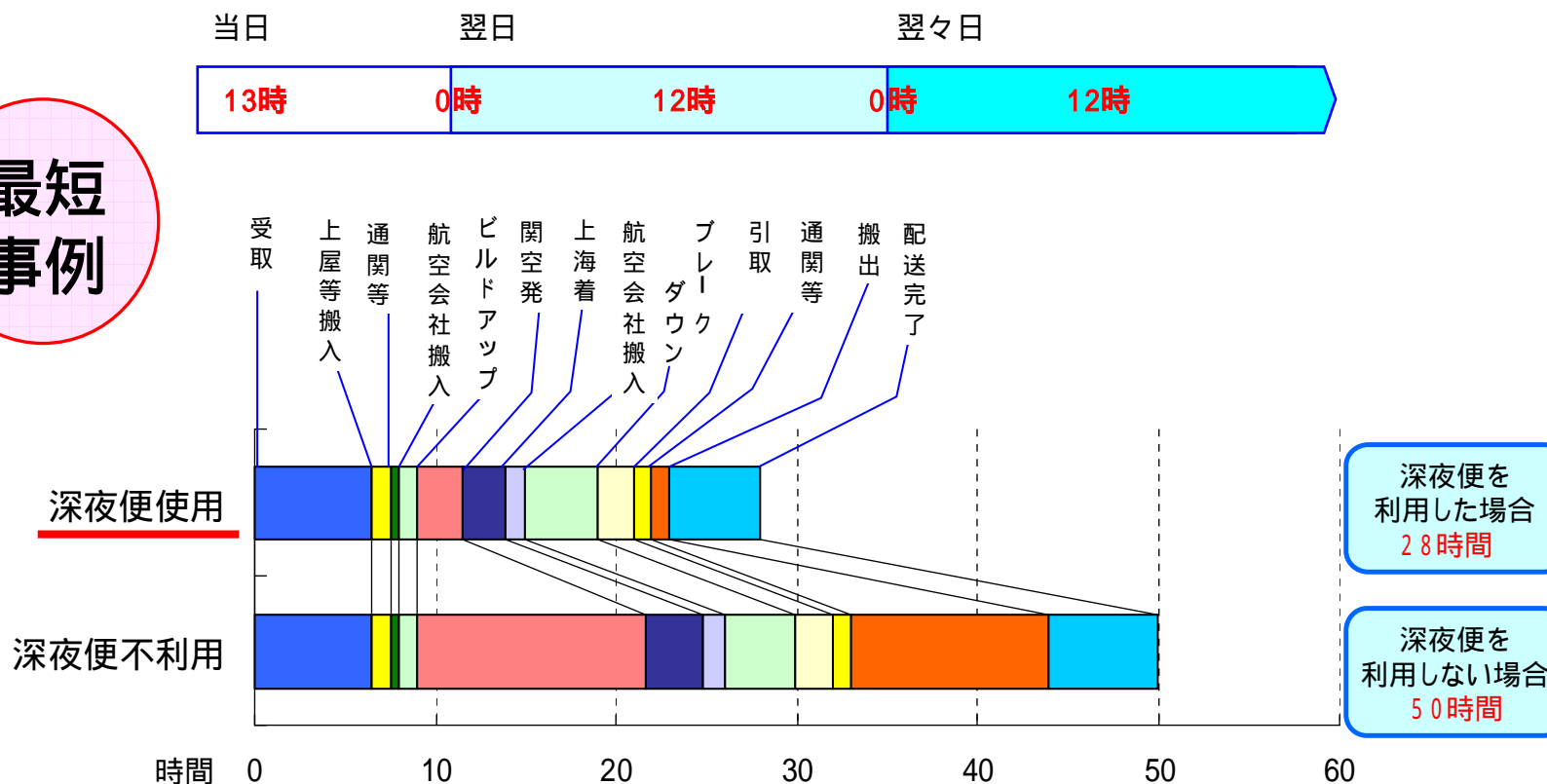


受託～関空出発までの
リードタイムの短縮
平均10時間5分

着陸～配送・引渡しまでの
リードタイムの短縮
平均12時間8分

その他、フライト時間の影響がある。

最短事例



(時間は現地時間)	深夜便使用	深夜便不利用
受取	13:00	13:00
上屋等搬入	19:30	19:30
通関等	20:30	20:30
航空会社搬入	21:00	21:00
ビルドアップ	22:00	22:00
関空発	0:30	10:40
上海着	1:50	12:50
航空会社搬入	3:00	14:00
ブレークダウン	7:00	18:00
引取	9:00	20:00
通関等	10:00	21:00
搬出	11:00	8:00
配送	16:00	14:00

関空における国際線就航状況（2006年冬期スケジュール）

- 【取組状況】
- ・平成18年7月の日中航空交渉で、旅客輸送力2割増、貨物輸送力倍増という内容が合意
 - ・関西国際空港の2006年冬期スケジュールにおいて、中国路線を中心に過去最高となる週167便が就航し、国際航空ネットワークのさらなる充実が実現

旅客便566便、貨物便167便の合計733便/週(過去最高)

ヨーロッパ 週48.5便

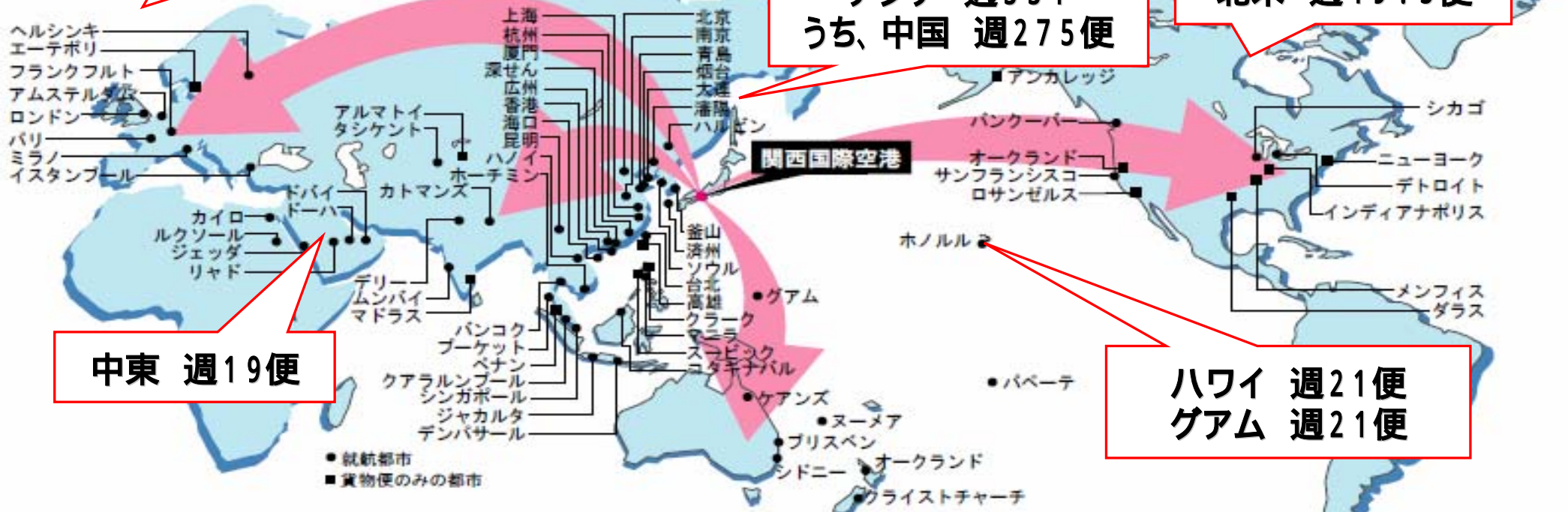
アジア 週551
うち、中国 週275便

北米 週49.5便

中東 週19便

ハワイ 週21便
グアム 週21便

オセアニア 週23便



航空会社数	58社
就航国（地域）数	30ヶ国・地域
就航都市数	73都市
就航便数	733便/週
	(過去最高!)

就航国（地域）

カナダ、アメリカ、〈グアム〉、イギリス、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、スウェーデン、フィンランド、トルコ、ウズベキスタン、カザフスタン、UAE、カタール、サウジアラビア、エジプト、韓国、中国、〈台湾〉、フィリピン、ベトナム、タイ、シンガポール、インドネシア、マレーシア、ネパール、インド、オーストラリア、ニュージーランド